

令和元年度自己評価への取り組み

令和2年3月
学校法人 専念寺学園 小松保育園

1. 園の教育目標

- ①明るく ②心ゆたかに ③たくましく

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ◎育児担当制を通しての個々の育ちの把握と生活習慣の自立の援助
- ◎発達の理解と発達に応じた環境作り及び子どもが主体的に
- ◎わらべうた、運動遊びの習慣化
- ◎保護者に伝わる発信方法への取り組み

【3】の評価結果の表示方法

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果					理由
	A	B	C	D	計	
◎育児担当制を通して個々の育ちを把握し、それに応じた援助ができたか ・担当制を通して愛着を形成し、情緒の安定を図る。 ・日課をたてて毎日繰り返すことで、子ども自身が日課に参加し、見通しを持って生活するようになる。 ・1人1人の成長に応じて丁寧に生活習慣の援助を行う。 ・3クラスの日課の流れがお互いに把握できるよう、定期的な話しあいの機会を持つ	0	6	1	0	7	・子ども一人ひとりに応じた援助ができた。 ・愛着形成の面では担当制保育はとて有効だった。 ・定期的な3クラスの話し合いが不十分であった。 ・職員によっては子ども自身が見通しを持って生活するようになるまで導けていないと感じるところもあった。
◎乳児の発達に応じた環境作りができたか ・季節や育ちに応じて、定期的に環境を考えたり、玩具の話し合いをする。	1	3	3	0	7	・発達に沿って玩具を用意していたが環境構成の見直しや話し合う機会が不十分だった。 ・月の話し合いで話すことは出来ていたが全てを用意することができていなかった。
◎わらべうた・運動遊びを習慣化する ・職員間で共通理解を持ち保育の中に取り入れることができるよう定期的に話し合いを行う。 ・体育講師の助言のもと、日課を変えることなく取り組めるようにする。 ・発達や体力向上を意識した取り組みをする。	1	3	3	0	7	・日課を変えることなく取り組めていた。 ・運動遊びやわらべうたについて職員間で情報交換する機会が少なかった。 ・戸外遊びでの環境作りがマンネリ化し発達に応じた環境作りや発達を意識した取り組みに欠けたところがある。
◎保護者に伝わる発信が積極的にできたか ・保護者に伝わる発信を積極的かつ専門的に行うようにしていく。 ・この活動(遊び)によって何が育つかなどを伝える。 ・保育士一人ひとりが子どもの成長発達過程を頭に入れ、それを意識した伝え方を心がける。 (ただの出来事の報告にならないよう) ・ドキュメンテーションHPを効果的に取り入れていく。	0	5	1	1	7	・HPや連絡帳、送迎時を活用して連絡していたがドキュメンテーションやポートフォリオを使って活動を可視化することは出来ていなかった。 ・活動の意図や育ちの過程などを伝えることができていない事が多くあった。

4. 今後取り組むべき課題

課題	考えられる具体的な取り組み
保護者への発信	・HP、ドキュメンテーション、ポートフォリオなど、どのツールを使ってどのように発信していくのが話し合い、無理なく進めていく。
わらべうたを日常的に取り入れられるようにする	・職員間でわらべうたを学びあえる時間を持つ。 ・少ない数でも良いので子ども達の中で浸透するように積極的に唄うようにする。
園の環境を生かした取り組みを積極的に行う	・例えば、0・1才児の簡単な運動遊びなど計画的に話し合い取り組んでみる。
季節や発達に合わせた環境作り	・発達課程に沿った玩具リストを活用した話し合いを定期的に行う。